

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ニホンダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）ミツイズミゼミナール
日本大学	経済学部	三井泉ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）トレインエンジェル	フリガナ）セキモトアヤカ	7	無
トレインエンジェル	関本彩花		

研究テーマ（発表タイトル）

I Can See Project ～スマートフォンのアプリを使って世界を見える化に～

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

世の中には、妊娠初期の女性や内部障害を患っている人、義足を装着している人など、外見では分からなくても支援を必要としている方がいる。私たちはそのような人たちがいることに気付いたら、何か支援することができるかもしれないと考えた。気付きを実現することで支援を必要としている方が安心して過ごせる社会を創造することができるのではないかと。

そこで私たちは、何気ない日常に気付きを与え、「支援をする側」と「支援をされる側」のマッチングを行うアプリを提案する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

- 妊娠初期の方が抱える不安として悪阻がひどい・見た目では分からないため気づかれにくいなどがあり、周囲の人が気にかけることの必要性が考えられる。
 - 障害者の生活実態に関するアンケートによると、医療の支援と福祉サービスの支援に続き、日常生活の支援の必要性が挙げられる。例えば、義足を装着している人に対して、電車内で席を譲る支援などがある。
- ➔ 私たち周囲の人ができる小さなサポートでも、妊婦さんや障害を患う方にとっては大きな支援になり得るのではないかと？

3. 研究テーマの課題

（課題①：支援を受ける側） 支援をしやすくするためのマタニティマークやヘルプマーク・耳マークなどが存在するが、認知度が低いことに加え、マークを着けていることに気付かれにくい。

（課題②：支援をする側） 近年保有率が増加傾向にあるスマートフォンであるが、例えば電車内でも多くの人が夢中で操作している光景をよく目にし、スマートフォンによって周りが見えていない状況にある。

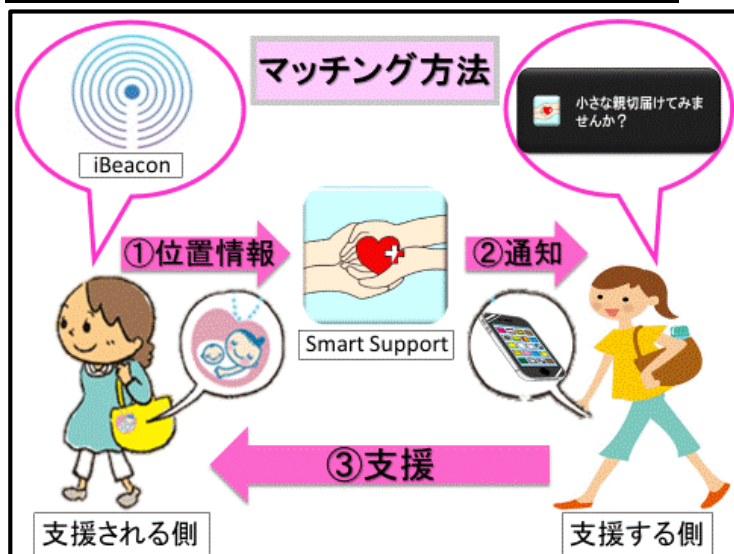


- 特定の人のみが使用するマークの認知度をあげることは難しい。
- 常時携帯しているスマートフォンを利用することで、近くに支援を必要としている人がいることに気づきやすくなるのでは？

以上の課題点をふまえて、私たちは、『スマートフォンを使って、アプリによる通知で気づきを促す』ことが有効であると考えている。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

「支援をする側」と「支援をされる側」のマッチングシステム



- iBeacon … スマートフォンに搭載されている Bluetooth と連動し、位置情報を発信できる持ち運び可能な機械。
iBeacon は、プッシュ通知(ユーザーが働きかけなくてもリアルタイムで情報の受け取りが可能な機能のこと)をすることが可能で、屋内や地下でも正確な位置情報を発信できる。
- Smart Support (アプリ) … 「支援される側」が持つ iBeacon から位置情報を獲得し、「支援する側」が持つアプリへ通知するための媒体。

◇アプリ概要◇

- 【支援される側】… 1) アプリをダウンロード。⇒ 2) 初期設定として、個人情報・性別・年代・所持しているマーク・服装・症状を登録。⇒ 3) 登録した情報を転送した iBeacon を持つ。
- 【支援する側】… 1) アプリをダウンロード。⇒ 2) アプリで個人情報を登録。⇒ 3) Bluetooth をオンに設定。⇒ 4) 【支援を受ける側】が近くにいると通知がくる。



「支援される側」が性別や年代、所持しているマーク、服装などを登録することで、「支援する側」が「支援される側」を見つけやすくなる。また iBeacon とアプリが連動し、「支援する側」の持つスマートフォンへ通知がくるため、「気づけない環境」から「気づける環境」を創り出し、支援をより行いやすくする。

◇マッチング成功例◇

『Smart Support』アプリを使って、「支援される側」と「支援する側」のマッチングが成功すると…

- ・例 1) 近くに視覚障害の方がいた場合、点字ブロックの上を歩かない。
 - ・例 2) 受付などで呼ばれている聴覚障害の方がいた場合、呼ばれていることを伝える。
- など、気づきから支援が生まれる。

◇アプリを利用することのメリット◇

『Smart Support』アプリから気づきを得て、サポートや支援を行っていく人々が増えていくことで、支援を行うということが当たり前の社会になり、全ての人々が安心して暮らせる社会が実現する。

私たちが提案する『Smart Support』アプリを使えば、「助けを必要としている人」がいることに「気付くこと」ができる。
「気付くこと」、それが支援への第一歩になるのではないか？

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

- ・iBeaconとBLEを使った通知機能の実現可能性の調査(協力：株式会社富士通アドバンスエンジニアリング)
- ・ハートプラスマークに関する調査(協力：特定非営利団体ハート・プラスの会)
- ・ヘルプマークに関する調査(協力：東京都福祉保健局)
- ・自治体に iBeacon の配布協力を提案(協力：千葉県福祉保健局障害福祉サービス課。千葉県柏市諸王会社相談支援室。山梨県福祉保健部障害福祉課。静岡県健康福祉部管理局政策監)

6. 結果や今後の取り組み

今回、プランを考えていく中で助けを必要としている人が周囲に存在しても気づくことが難しいと明らかになった。このプランを実行し続けることで「助けを必要としている人」が身近にいることに気づき、支援を行いやすくなる。最終的に安心して暮らせる社会を実現することが可能になる。現段階では企業への提案を中心に行っているが、引き続き行政への提案も続けていきたい。

7. 参考文献

- ・妊娠初期に不安！アンケートでわかったママが困った・危険と感じたこと6選 後悔したくないママのための子育て充実サイト <http://happy-ikujii.net/?p=12000>（最終閲覧日：2016年9月28日）
- ・障害者の生活実態に関するアンケート - 埼玉県 <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0604/zittai/index.html>（最終閲覧日：2016年9月28日）
- ・マイナビニュース <http://news.mynavi.jp/news/2014/03/31/034/>（最終閲覧日：2016年9月28日）
- ・母子保健に関する世論調査 2 調査結果の概要 1 - 内閣府 <http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-boshihoken/2->（最終閲覧日：2016年9月28日）
- ・ZUNNY 知っておこう！障害、妊婦など「公共マーク」認知度 <http://zunny.jp/00002388>（最終閲覧日：2016年9月28日）
- ・コンビタウン 「マタニティマークアンケート」2011年度 <https://www.combibaby.com/c/593>（最終閲覧日：2016年9月28日）
- ・優先席で携帯電話、okに 朝日新聞 D E G I T A L <http://www.asahi.com/sp/articles/ASH9Z3QQKH9ZUTIL00G.html>（最終閲覧日：2016年9月28日）
- ・ヘルプマーク 東京福祉保健事務局 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/smph/shougai/shougai_shisaku/helpmark.html（最終閲覧日：2016年9月28日）

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となります。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。